

(熊本県立天草拓心高等) 学校 令和7年度(2025年度) 学校評価表

1 学校教育目標

「夢は空より高く 心は海より広く 道を拓かん」の校訓を基本理念とし、特色を生かした多様な学びをとおして生徒一人一人の魅力あふれる個性と可能性を引き伸ばし、未来を切り拓く力に変え、心豊かで地域創生に貢献する人材育成と活気あふれた学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 確かな学力を育成し、生徒一人一人に寄り添った指導の充実
 - ア 学習の基礎基本を大切に丁寧な指導を心掛け、主体的に学びに取り組む意欲を育成する
 - イ 指導と評価の一体化による多様な評価方法の工夫と改善を図る
 - ウ 充実したキャリア教育を通して、社会的・職業的に自立できる能力と態度を育む
- (2) 豊かな人間性の育成
 - ア 人権尊重を基盤とした自他の命を大切にする心を育成する
 - イ 礼節・規範意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を養う
 - ウ 校舎や学科間を横断した交流により連帯感や愛校心を高める
- (3) 心身の健康を自ら高め、管理する態度の育成
 - ア 基本的生活習慣の確立と健康や安全教育を推進する
 - イ 情報モラル教育をとおしてSNSとの関わり方を整える
 - ウ 学校行事、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等による自尊心の高揚を図る
- (4) 地域との連携・協働(地域から学び、自ら考え、地域に貢献できる人材育成)
 - ア 産官学連携による実践的な課題解決学習の充実を図る
 - イ 地域のニーズ等を踏まえた学科の特色化と情報発信に努める
 - ウ 農業・商業及び海に学ぶ体験的・実践的な教育活動を展開する

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	重点目標の具現化	校舎制や7学科8コースの特徴を生かし、地域のニーズ等を踏まえた学校の特色化を図る	KSHコンソーシアム委員を毎学期1回以上活用し、地域のニーズに気付き、地域から信頼される学校づくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・KSH構想におけるクリエイティブハイスクールとしての事業実践の充実とともにコンソーシアム委員の活用を図る。 ・地域協働による課題発見や、その解決に向けた探究活動。 ・苓北町及び太陽グループとの協定の活用。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年では全体を6つの分野に分け、コンソーシアム委員の方々に授業に参加していただいたり、校外活動をとおして、探究を深めることができた。 ・各学科で地域と協働による地域活性や地域資源を活用した商品開発などの課題解決学習を実践することができた。 <p>今後も関係各所と連携協働しながら、持続可能で探究的な学びを進化させていきたい。</p>

	職員の資質向上	校内研修の充実と研修等参加への積極的な奨励	ミドルリーダーの育成	・教職員向けの外部講師を活用した校内研修の実施。 ・NITS(独立行政法人教職員支援機構)の動画の視聴等、自己研修の推奨。	B	・外部講師による職員研修(AED・熱中症対策)や不祥事防止研修を実施した。今後も研鑽に努め、「知識」から「習慣・文化」へ昇華させていきたい。
	業務改善、働き方改革の推進	業務の整理や効率化による教職員のワーク・ライフ・バランスの実現	・業務の見える化を行い、時間外在校時間が月45時間を超える教職員を各校舎前年度平均以下とする。(前年度:本渡校舎14人 マリン校舎5人) ・職員のメンタルケア。	・ICT活用やペーパーレス化等業務改善策の定着を図る職場環境の整備によって、職員間の働きやすさを高める。 ・定時退勤日を設定し、定着を図る。 ・日々の声掛けと職員面談の実施。	A	・マリン校舎ではICT活用やペーパーレス化が進んでいたが、本渡校舎では朝会でのICT活用を3月より試行する。 ・時間外在校時間(12/31現在) 月平均45時間以上の教職員数 本渡校舎 13人(22.0%) マリン校舎 3人(6.1%) ・時差出勤の活用を推奨した 本渡校舎 11人(18.6%) マリン校舎 15人(30.6%)
	危機管理体制の強化	危機管理意識の向上と的確な対応	危機管理マニュアルの点検・見直し及び危機管理訓練の実施。	実験・実習・体育・乗船・行事における事前指導の徹底。	A	・マニュアルの不断の見直しと研修の実施により、職員の意識改革と組織の危機管理能力の底上げを図った。
		学校管理下の事故未然防止の取組	実験・実習・体育・乗船・行事などでの事故「0」を目指す。	定期的に劇物・薬物の保管管理状況の点検、施設・設備・実習船の点検を実施する。	A	・事前指導を徹底した結果、実験や実習、体育的行事等において健康被害や重大な事故を未然に防ぐことができた。
学力向上	授業の工夫・改善	分かりやすい授業の研究と実行	・ICT機器の活用 ・研究授業・公開授業の実施 ・授業評価アンケートの活用	・研究協議により授業の手法について情報を共有する。 ・自己評価・他者評価を授業のPDCAサイクルに生かす。	B	・研究授業や授業評価アンケートを授業改善に生かすことができた。 ・学校評価アンケートでは、「授業のICT活用」、「授業改善」について、教職員の評価が低く、よりよい授業の実現に向けて、前向きに努力を行いたい。
		学習評価の充実	・教科や科目の特性に合わせた観点別評価の実践	評価の観点の事例を共有し、外部講師等による研修を実施する。	B	・外部講師による職員研修を行った。教科や科目の特性に合わせた観点別評価の実践に向けて、事例を元に学んだ。
	基礎学力の定着・学習意欲の高揚	基礎学力の定着支援 発展学習の支援	・個に応じた学習支援	考査前の補習や補講を実施するとともに、個別指導の充実を図る。	B	・考査前学習会や補習・補講を計画し、個に応じた学習支援を行った。

		生徒の学習意欲向上に結びつく体制作り	・各教科の連携強化	関連のある学びについて他教科との連携を行う。	A	・生物生産科が飼育している天草大王を軸として、拓心鍋を作り、各学科で連携して教科の特性に応じた学習活動(歴史、パッケージデザイン、レシピ、調味料製造など)を実施した。
キャリア教育(進路指導)	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上並びに進路に関する諸能力育成を目指したキャリア教育の充実	生徒一人一人の多様な進路先に応じた、きめ細やかな進路指導	生徒の適性や特性等を把握する機会を設け、その結果を活用して生徒の進路希望を尊重した進路指導を行う。	・職業適性検査を実施し、生徒の適性や特性を把握し、職員間での情報共有を図る。 ・進路希望調査を各学期に実施し、担任等による個別面談に活用する。 ・キャリアサポーターによる個別面談を行い、教員とは違う視点からの助言を活かした進路指導を行う。	A	・職業適性検査や進路希望調査の結果を受けて、面談時間を活用して、それぞれの生徒に応じた進路選択のアドバイスを行った。 ・2年生の就職希望者を対象にキャリアサポーターとの面談を実施し、情報提供や助言をするとともに、早期からの就職活動の意識づけを行った。 ・就職希望者は、両校舎とも早い時期に全員内定をすることができた。
		地域(産官学等)と連携したキャリア教育の充実	インターンシップの受入事業所と事前の目標及び目的と、事後の評価を共有する機会を設ける。	・インターンシップ受入事業所と実習の事前に目標及び目的の共通理解を図る。 ・インターンシップ受入事業所と実習後に教員と評価を共有する。 ・インターンシップの生徒報告書を、受入事業所と共有し、生徒の自己評価について共通理解を図る。	B	・2学年の全生徒を対象にインターンシップを実施し、勤労観の醸成につなげた。また、事前学習では、訪問依頼の電話をかけたり、自己紹介シートを作成したりするなど、実習以外での学びも深め、学校での生活との結びつきについて考える機会とすることができた。 ・事前に教員がインターンシップ受入事業所に訪問するだけでなく、実習期間中にも訪問し、当初の目標への到達度などを共有した。 ・インターンシップ受入事業所の評価を教員と共有し、生徒にフィードバックできた。しかしながら、生徒の報告書等の事業所との共有やインターンシップ実施後の勤労観の醸成等について課題が残った。
		進路情報の発信や進路希望等の情報の共有	進路情報などをプリントや学校ホームページすぐる等を用いて発信する。また、職員間で綿密な情報共有を行う。	・保護者への進路情報提供を学期毎に実施する。 ・進路希望調査や模擬試験等の結果を職員間で共有し、面談等をとおして生徒に現状の把握と今後の方向性を持たせる。 ・職員連絡会等を月1回以上実施する。	A	・進路だよりを毎学期発行し、進路関係の行事の案内や紹介などの情報発信を行った。 ・各学期に設定されている面談週間では、キャリア・パスポートを活用して、学習面や生活面の目標設定と振り返りを行い、見通しを持った生活ができるように指導した。 ・進路指導部会を小まめに実施し、情報の共有を図ることができた。

生徒指導	自己指導能力の育成	基本的生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら挨拶のできる生徒の育成 ・時間を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導時の挨拶励行。(生徒会活動含) ・登校指導を行い、遅刻者への継続的な指導を行う。 ・授業はチャイムからチャイムまでを生徒職員間で共有し、時間を厳守する意識を学校教育全体で養う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・両校舎ともに、生徒指導部が中心となり、毎朝登校指導を行った。遅刻者はいるものの、9割以上の生徒が時間内に登校し、校内での挨拶もしっかりとできていると感じる。 ・授業開始のチャイムが鳴っても、トイレに行っている生徒が度々見受けられる。生理現象で致し方ない面もあるが、特定の生徒なので、継続的な指導が求められている。
			身だしなみを整え、清々しい整容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して定期的に整容指導を実施する。 ・生徒自身の整容面への意識向上を目的とする主旨を踏まえ、校則の見直しなどを生徒とともに進め、教職員間の連携を図り、日頃から自発的に身だしなみを整える意識を養う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会の際に、整容指導を行い、日ごろから身だしなみを整える習慣を身に付けさせようとしているが、学校評価アンケートの保護者回答にあるように、指導の徹底が十分とは言い難い現状がある。現状を職員間で共有して、現状の改善を行いたい。
		他者への思いやりと自尊心の育成	情報モラル教育の充実	集会や人権教育LHR、情報の授業等を活用し情報モラルに関する講話を実施。また、情報安全・情報モラル教育についての職員研修を実施し、教職員の資質向上を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、SNS上での個人情報の拡散が社会問題になっているが、今年度の本校に関しては、SNSでのトラブルはほとんどなく、生徒は上手にSNSと付き合っている印象を受ける。今後も、学校の教育活動全般を通して、指導の徹底を図りたい。
		集団生活を通じた共生の心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・寮生活の充実 ・生徒一人一人の人権に配慮した環境整備(マリン校舎) 	自主自立の精神を育成する充実した寮生活に向けて、適宜寮生へのアンケート調査を行うことで、寮生活全般の改善点を把握し、人間関係を考慮した部屋替え食事の改善を行い、寮環境を整備する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・寮内での対人トラブルは、多少起きてはいるものの、管理人や保護者とすぐに連携して対応していることで、事後に寮生活を送ることが困難になる状況は発生していない。部屋替えのタイミングも適切な状況の下で行えているので、生徒からも不満の声は上がってきていない。
		交通ルールの遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車・原付の乗車マナーの指導徹底。 ・交通違反・事故件数の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学生及び原付通学生に対する講習会の実施。 ・自転車乗車時のヘルメット着用の重要性について、自分で命を守る意識の涵養を図る。 ・交通安全に関する標語やポスターの掲示を行うなど、啓発活 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、原付を運転しているときの、事故が非常に多かった。自損もあれば、自動車と衝突する事例もあり、安全運転の意識をさらに持たせる必要性を感じた。 ・来年度4月から、自転車乗車時の交通違反にも青切符制度が実施されるので、今年度3学期のうちに、事前指導の徹底を行う予定である。

				<p>動を活発にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故現場での対応マニュアルを生徒へ配付する。 		
人権教育の推進	<p>個人を尊重し、相互理解を深め、差別やいじめのない学校・学級づくり</p>	<p>生徒の人権意識を高める教育活動の推進</p>	<p>すべての教職員が、人権教育実践の担い手であることの意識付けを図るため研修などを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業およびLHRにおいて人権教育に取り組む。また各学年で実践研修に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権同和教育課から指導主事を招いたり、防災教育研修の中に「災害と人権」を組み込んだりなど他部署と連携し、「教職員が人権教育実践の担い手であることの意識付けを図るための研修」を実施することができた。LHRでは、担任を中心に人権教育を実施し、この数年取り組んでいなかったハンセン病についての人権教育を実施することができた。(本渡) ・人権課題が多様であるため、情報の最新化が常に必要である。(本渡) ・性的指向について講師を招き、職員研修を実施した。(マリ)
	<p>生命を大切にすることを育む指導</p>	<p>生徒が安心して相談できる環境づくりと個に応じた組織的な対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権委員会の活性化を図る。 ・相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のきずなを深める」月間の啓発と標語の作品募集。 ・特別支援教育委員会(マリ校舎)、教育相談部会(本渡校舎)と協力して、得た情報を人権教育にも生かす。 ・保健室との連絡を密にし、SC・SSWなどの情報を人権教育に生かしていく。 		B
いじめの防止等	<p>いじめ根絶のための啓発活動</p>	<p>いじめ根絶に向けたすべての教職員の組織的な対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、早期発見・対応 ・いじめ防止対策委員会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年、学科と連携をとり教育相談部など他の分掌部と協力してアンケートや面談週間を実施し、いじめの未然防止に取り組むと共に、いじめ防止対策委員会を適宜開催し、的確な対応や未然防止策を全職員で共有する。 ・いじめの早期発見・対応のために生徒指導部や教育相談部が主体となって、職員間での生徒情報の共有を密にする。 	A	<p>いじめ事案の未然防止、早期発見については今年度非常に良い取り組みができていていると感じる。それは、11月の心のアンケートの結果にも表れており、いじめ件数の激減、いじめは許されないと考える生徒数の増加、スクールサインの投稿数の激減など、目に見えて良好な状況になっている。来年度は、その良さを支えている要因は何にあるのかを、しっかりと見つめ直し、いじめを絶対に許さない学校の環境を作りたい。</p>

		生徒一人一人が人権感覚を育み、良好な人間関係構築のための支援	具体的行動指標や標語、ポスター等作成	「いじめ根絶宣言」を全校生徒に周知し、全校集会や学年集会、LHRを活用して、講話やポスター掲示や標語の募集を行い、生徒自らが豊かな人権感覚を養う機会を設ける。	A	・生徒会の生徒が中心となり、人権標語などを作成し、いじめ根絶に向けた継続的な取り組みを行っている。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	保護者や地域等との連携 情報発信	育友会、同窓会、自治体、企業との連携	育友会、同窓会、地域と協力し、地域活性に協力しながら教育活動を充実	学校行事や商品開発、地域活性において、育友会、自治体、諸団体と協力する。	A	荅北町や太陽グループとの包括連携協定を結び、地域との連携に取り組んだ。育友会には、長距離走大会交通指導、豚汁炊き出し等協力をいただいた、10周年記念式典も多数の来賓に来校いただき開催することができた。
		広報活動の充実	情報機器を活用し、地域への情報発信	ホームページ、インスタグラムの活発な更新、学校新聞等の配付。	A	インスタグラム等デジタルでの発信、テレビ、新聞等での報道、回覧板での学校新聞回覧等広報活動ができた。インスタグラムは両校舎で日々更新を行うことによって、2月1日時点でフォロワー数が3,100を超えている。